

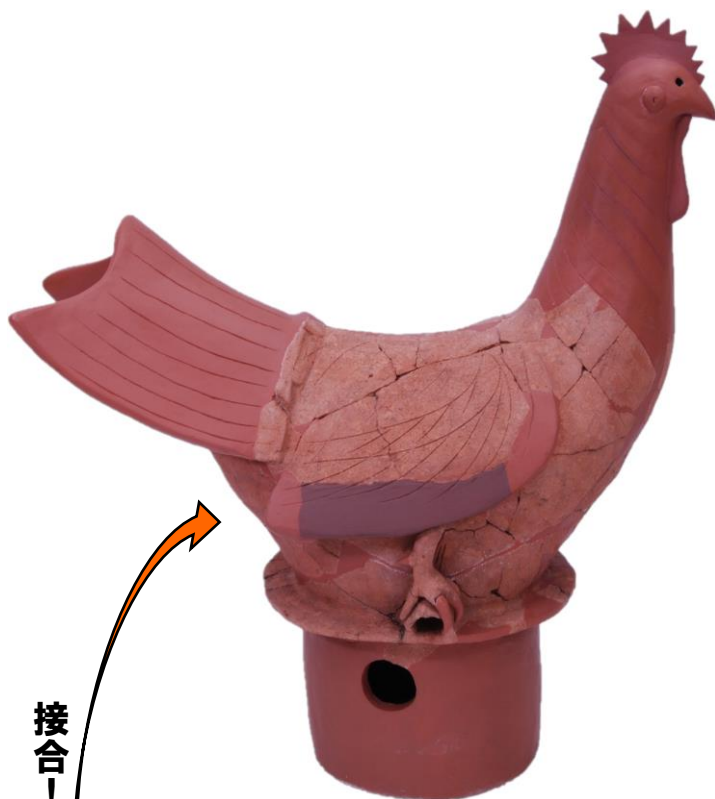
12月25日(日)まで、企画展「赤堀茶臼山古墳—東国屈指のハニワたち—」を開催しています。3回に分けて企画展の情報をお届けするシリーズの最終回は、赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪に接合した羽破片について紹介します。ぜひ、資料館に来て迫力のある埴輪をご覧ください。



企画展 赤堀茶臼山古墳 —東国屈指のハニワたち—

12/25
(日)まで

◆ 第3回 赤堀茶臼山古墳の埴輪工房 ◆



接合!

赤堀茶臼山古墳から出土した鶏形埴輪

羽の色の濃い部分に、釜ノ口遺跡出土の羽が接合



釜ノ口遺跡出土の鶏形埴輪の羽破片

破片は、窯での焼成後に埴輪工房の火災による焼成を受けたためススが付着したと考えられます。鶏形埴輪本体に比べると、釜ノ口遺跡出土の羽の表面は風化していません。

赤堀茶臼山古墳から3km離れた釜ノ口遺跡(伊勢崎市堀下町)では、鶏形埴輪の羽の破片が出土しています。実は、この破片が赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪と接合する事実が明らかとなりました。釜ノ口遺跡は、赤堀茶臼山古墳から出土した家形埴輪と同じ埴輪が火災で焼成され出土していることや、埴輪の透孔^{すかしこう}の割り抜き部分と粘土塊が出土することから、これまでも赤堀茶臼山古墳の埴輪工房と考えられていました。それに加え、新たに赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪と釜ノ口遺跡の羽破片が接合する事実は、赤堀茶臼山古墳の埴輪を生産した埴輪工房が釜ノ口遺跡であることを具体的に示す大きな発見となりました。

何故、羽の破片が埴輪工房の釜ノ口遺跡に残されたのか疑問が残ります。現段階では埴輪窯は発見されていませんが、埴輪工房で製作した鶏形埴輪が焼成段階で羽が取れてしまい、そのまま羽は釜ノ口遺跡へ残され、羽をなくした鶏形埴輪は赤堀茶臼山古墳へ運ばれ設置されたのかもしれませんが。



約1,500年を経て接合した鶏形埴輪の羽

※新型コロナウイルスの影響により中止する場合があります

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

入館無料

休館日：月曜日(月曜日が祝日は翌日)・年末年始・臨時休館日 開館時間：午前9時～午後5時(入館は4時30分)

お問い合わせ 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98 電話 0270-63-0030 FAX0270-63-0087

新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。ご来館の際は最新情報をホームページでご確認ください。